

3月13日(火) 9時半～11時半

於 県図書2階小研修室

第一回研究会

研究会の意義

2017年9月、「鳥取県を舞台に！歴史大河ドラマを推進する会」主催による選考会が開催され、五つのグループが提案した中で、碧川かたの「赤とんぼの母」が朝ドラに向けて推進していくことに決まった。大河ドラマに向けた澤田節蔵・廉三・美喜の「三愛のクニへ」と共に、NHKに働きかけて行く予定である。

そのためには、鳥取の良さを発掘し、学習会を深めて、県民に普及する活動を行わなければいけない。碧川かたを薦めるグループとしてはまず学習会をする必要がある。

たつの市でも「かたさんを朝ドラの主人公にする会が昨年4月発足し、互いに協力推進していくものである。

研究会の目的

碧川かたについて、県内の有識者の方に、資料提供と意見発表をして頂き、それを聞き、関心をさらに広げていきたい。今まで一人で関心をもっていた人もあり、他の方の意見を聞くことにより、更に関心も深まるものである。

また、時には県外からでも有識者を招いて研究会を持ちたいものである。



米子訪問

2017年9月28日

米子天神町一丁目
碧川家レンガ塀の名残り 電柱先の一列

内田・四井が訪問し、石原区長と話す。森林とし子さんの写真提供あり。

米子市山陰歴史館にも寄って、碧川企救男の資料について伺う。

その帰りに湯梨浜町松崎西向寺の和田家墓所を訪ねた。



本堂の前に二十二士の碑もある。



湯梨浜町の川田さんに出会ったこと。

パンフレットが完成 2017年12月

ちらしができて、古文書解読ボランティアの会に持ってでると、坂本敬司先生(私の古文書解読の先生)が「中部にこういう人がいるよ」と教えてくださり、今年1月12日湯梨浜町に訪ねて行く。(古文書解読ボラは第一土曜日が東部、翌日午前が中部、午後米子に移動)

初対面なのによく話しが弾んだ。和田家のことに以前から関心を深めておられ、思いを紙面にもしておられた。「これは私一人が聞いてはいけない、多くの人に聞いてもらわなければいけない！」湯梨浜町松崎は江戸時代和田家老の知行地であり、かたの乳母もいたところで、その地元でなければわからないこともある。東部・中部・西部から有識者が集まらなければ深めたり、広めたりできないと思ったわけです。

このことを、内田克彦さん(鳥取県を舞台に！歴史大河ドラマを推進する会共同代表)に持ちかけて実現することになりました。

発起人 四井幸子(「赤とんぼの母

碧川かた」提案者)

2017年4月 「碧川かたを朝ドラの主人公にする会」発足。

2017年9月30日(日) たつからのバスで訪鳥。詳しくは→www.facebook.com/katanokai Tatsuno

かた顕彰碑から

『鐘は既に鳴れり』角秋勝治氏著が発行された



のが2012(平成25)年12月である。発行されてブームが起きた。童謡「赤とんぼ」などを作詞した三木露風の母で、女性参政権運動など女性の地位向上に尽力した碧川かたの功績を残すための顕彰碑を建てるため市民団体「碧川かた顕彰会」が実行委員に入り、2014(平成27)年7月に碑が設立された。河越太郎氏が『よみがえれ赤とんぼの母』(鳥取県立図書館郷土資料所蔵)の中で「東京のかたさんの墓地に「赤とんぼの母ここに眠る」という立派な墓碑銘が建てられているのだから、彼女の生誕地に「赤とんぼの母ここに生まれる」といった意味の標柱が建てられたとしても、決して無意味なことではない」と昭和51年の文中にある。それが実現したのである。今回、角秋勝治さんをはじめ、彫刻家や書道家など第一線で活躍しておられる方々のお力が大きかっただけでなく、多くの女性の実行委員が自主的に活動したこと、は、「羽ばたく女性」かたさんと重なって頼もしかった。



そういうことが私のずっと以前からの研究に再び火がついたのだと思う。碧川かたは看護師の先駆者であり、鳥取市出身ということから看護の歴史上の人物であったが、私はかたの父親和田邦之助に関心を持ったのだ。日本史を学びなおすため、47歳で通信大学に入り、夜勤をしながらの8年間をようやく終わることができた。卒論はもちろん和田邦之助にした。15年も前のことだ。

2015(平成28)年12月の田中精夫氏・内田克彦氏の鳥取を舞台にした大河ドラマを薦めようという準備会に顕彰会の女性軍を誘って行き、「赤とんぼの母」碧川かたの生涯」を提案した。何度か発表会があつて、会場で聞いてくださる女性の方から「よくわかったよ」と声をかけていただいた。9月の投票で次点であつたが、朝ドラに向かつて進めていくことになった。顕彰碑ができてみると、意外に県外から見に来る人が多いのと同じで、ちらしができてみると、意外に関心を持っていた人が声を出されたのである。

朝ドラに向けてはNHKに働きかけていかなければいけない。それが小さい声ではいけないのです。鳥取県民そろって関心を持つてもらわなければいけない。そのためにまず学習からの研究会をする必要性を感じた。月に1回程度は開催したいものです。

元看護師 四井幸子

「今年の大きな予定」

5月26日(土) 角秋勝治氏

「碧川かたとその時代」

於 たつとの経済交流センター

6月15日(金) 四井幸子

「赤とんぼの母」碧川かたの生涯

父は和田邦之助」

於 鳥取市文化センター

6月末〜7月22日(日)

「碧川かた資料展示会」

於 因幡万葉歴史館

※準備・撤去の協力よろしく!

7月6日(金)〜7日(土)

『命一コマ』著者の河野浩美さんが千葉市から来鳥、対談か講演

於 因幡万葉歴史館会議室

時間午前10時〜12時

6日からもてなしできる方募集中

このひろみ 昭和21年生まれ。千葉市在住。

第4回読売「女性ヒーローマン・ドキュメンタリー」

大賞入選。昭和58年11月読売新聞社刊

『こぶしの花』所収

6日湖山空港14時出迎え、湯梨浜町・かた顕彰碑などを案内

ホテルモナーク鳥取泊

6日18時、同所で懇親会※参加者募集

7日因幡万葉歴史館他

18時半湖山空港へ見送る。

☆次回ののご案内は次号をご覧ください。